

学部紀要発行10周年記念によせて

現代教育学部長 花井 忠征

現代教育学部が開設して、今年で10周年を迎えました。学部開設の年に『現代教育学部紀要 第1号』が発行され、月日が経つのは早いもの、10号の厚みを重ねてきました。これもひとえに学部の先生方の日頃の研究に向かう精力的な姿勢と努力、そして積極的な成果の公表の賜物とたいへん嬉しく思います。記念すべき第1号は、原著論文14編、資料3編、実践報告2編の19編が掲載され順調に発行されました。そして、本号で通算100編が掲載されることになりました。10年の歴史と重みを感じるとともに、立派な紀要に成長してきたことを誇りに思います。

『現代教育学部紀要』は、現代教育学研究所が発行する『現代教育学研究紀要』より1年遅れて発行されました。研究所の紀要は、教育機関や保育・教育実践の場との研究協力を図り、教育実践研究の成果を公表する目的で発行されてきました。一方、学部紀要は、学部教員の専門研究分野の論文を掲載することを目的として、研究所の紀要とはすみ分けをして発行されてきました。しかし、月日が経つにつれて、そのすみ分けはやや薄れてきたように感じられますが、学部教員の研究成果を公表する場としての機能は十分に果たしてきたといえます。

大学教員の仕事は、教育・研究・社会貢献とされています。いずれも日頃の研究の積み重ねで成り立つものであると考えます。近年、教職課程に関わる教員の業績審査が厳格化され、過去10年間に於いて教職担当科目に関わる研究業績や活字業績が求められるようになってきました。本学部教員の多くは、それぞれ専門分野をもつ中で教職課程に関わる研究業績を積み重ねてはならない状況にあります。それぞれの専門分野から教職担当科目に適合性のある研究業績を積み重ねることは、たやすいものではないといえます。各教員の努力によって、教職課程担当の資格維持が可能となっています。本誌は、その安定した業績を確保するために、大きく貢献しています。

現代教育学部は、開設してからこの10年間に多くの発展を遂げてきました。平成24年度には、児童教育学科に念願の中学校教諭一種免許状（理科）の教職課程を開設しました。同時に、大学院教育学研究科を開設し、小学校教諭専修免許状の取得を可能としました。翌25年度には、幼稚園教諭専修免許状も取得を可能としました。学部開設10周年を迎えた今年度は、児童教育学科を改組再編して「現代教育学科」と改称し、学科内を「現代教育専攻」と「中等教育国語数学専攻」の2専攻をたてて新たなスタートを切りました。既存の小学校、中学校（理科）、特別支援学校の各教諭免許状は「現代教育専攻」で、「中等教育国語数学専攻」には新たに中学校教諭国語及び数学の免許状の取得を可能としました。現代教育学部は、幼児教育学科で取得可能な幼稚園教員免許状と保育士資格を合わせると7つの免許資格を取得できるようになりました。平成18年の中教審答申で「開放性の教員養成の原則」による規制緩和に伴い、教員を養成する大学や学部が乱立しましたが、現在18歳人口の急減に伴う大学入学者確保の大きな問題に直面するに当たり、多校種の免許資格を揃えたことで本学部は生き残りをかけた激レースを乗り越える大きな原動力を得たと考えます。多校種の免許資格を安定的に維持するためにも、学部教員の業績の蓄積は不可欠であり、本誌の果たす役割はますます大きなものになっていくと考えます。

今後も多くの研究成果が本誌に公表され、社会に向けて学術的な情報を発信し、専門分野の研究や教育研究及び教育実践に寄与することを大いに期待します。本誌のますますの発展を心より祈念します。

最後になりましたが、本誌の編集に多大なご尽力をいただきました、歴代のFD委員会の先生方に心より謝意を表します。